

2025 年 3 月 3 日

厚生労働省 医政局 医事課
試験免許室 御中

一般社団法人 日本作業療法士協会
会 長 山 本 伸



第60回作業療法士国家試験問題について（意見）

謹啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より当協会の活動にご支援ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、2月24日に実施されました第60回作業療法士国家試験問題につきまして全国の作業療法士学校養成施設に問題の妥当性についてアンケート調査を実施しましたところ、208校(217課程)中119校57%から「適切でないと思われる」とする回答がありましたので、それらの回答について次の3つの方針に基づいて検討を行いました。

- (1) 全国の作業療法士学校養成施設から寄せられた「国家試験として適切でないと思われる問題」のみを検討の対象とすること。
- (2) 当協会担当部署においてさらに検討を重ね、「国家試験として適切でないと思われる問題」に限定して意見を具申すること。
- (3) 国家試験問題の範囲や難易度についての意見を具申するものではないこと。

その結果、設問内容の適切さ及び出題形式（図や設問の説明）について下記の意見を述べさせていただきます。また、特に検討していただきたい5問題（午前1問題、午後4問題）につきましては、別紙に内容を記載し、併せて具体的な理由を付記いたしました。

ご検討の程よろしくお願い申し上げます。

謹 白

記

I 複数の解が選択できると思われる4問題（午前25、午後10、27、53）について、複数の選択肢を正解とすることが望ましいと考える。また、提示された選択肢からは解を選択する判断ができないと思われる1問題（午後6）について、採点から除外することが望ましいと考える（別添資料1-1～1-5 参照）。

II その他の意見

用語や設問の表現が不適切であり選択肢の理解に戸惑う3問題（午後23、54、83）、消去法や優先順位等から解は選べるものの該当すると言い切れない4問題（午前96、午後4、30、98）、消去法や優先順位等から解は選べるものの他の選択肢も該当する可能性がある2問題（午後45、51）があると考え。尚、午後問題別冊の図（No. 5）に脱字が認められたので確認をお願いいたします。

第 60 回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(令和 7 年 2 月 24 日実施)

午前 問題	問題番号 (25)
25 二次予防はどれか。 1. 高齢者の骨折予防指導 2. 健康高齢者の運動指導 3. 糖尿病患者への食事指導 4. リウマチ患者への生活指導 5. インフルエンザワクチン接種 解：1、3、4（複数の解が選択できる）	
理由 選択肢「2」と「5」は、一次予防である。 厚生労働省HP（文献1）に「生活習慣病予防の二次予防は疾病の早期発見、早期治療である。介護予防の二次予防は生活機能の低下の早期発見・早期対応である」とあり、選択肢「1」と「3」、「4」は二次予防である。 選択肢「1」について、高齢者は骨折のリスクが高いため、高齢者の骨折予防指導は二次予防に該当する。 選択肢「3」について、厚生労働省HP（文献2）の、糖尿病の二次予防の項において「二次予防の目的は、糖尿病検診によって、糖尿病あるいはその疑いのあるものを見逃すことなく検出し早期に治療を開始することである。（中略）糖尿病検診の目標としては、40歳以上（ハイリスク者については若年者も）の糖尿病に関する健康診断の受診者を増加し、異常所見者に対しては事後指導を徹底するべきである」と記載があり、糖尿病患者への食事指導は二次予防にあたる。 選択肢「4」について、介護予防の二次予防は生活機能の低下の早期発見・早期対応であり、要支援状態となることを遅らせる取り組みである。リウマチ患者への生活指導を早期に行うことで、生活機能を低下させる二次障害を予防することができるため、リウマチ患者への生活指導は二次予防にも該当する。 したがって、選択肢「1」、「3」、「4」の複数の解が選択できる。	
参考とする文献 1. 厚生労働省ホームページ（介護予防のための生活機能評価に関するマニュアル） https://www.mhlw.go.jp/topics/2009/05/dl/tp0501-1c_0002.pdf 2. 厚生労働省ホームページ（健康日本21） https://www.mhlw.go.jp/www1/topics/kenko21_11/b7.html	

第60回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(令和7年2月24日実施)

午後 問題

問題番号 (10)

10 71歳の男性。令和6年8月19日(月)に病院で認知症の検査を受けた。結果(別冊No.5)を別に示す。
疑われる認知症の重症度はどれか。

No. 5 (O 問題10)

1	お歳はいくつですか？(2年までの誤差は正解)	69才	0 1
2	今日は何年何月何日ですか？何曜日ですか？ (年月日、曜日が正解でそれぞれ1点ずつ)	6年 8月 19日 月曜日	0 1 0 1 0 1 0 1
3	私たちが今いるところはどこですか？(自発的に出れば2点、5秒おいて家ですか？ 病院ですか？施設ですか？のなかから正しい選択をすれば1点)	自発的に病院	0 1 2
4	これから言う3つの言葉を言ってみてください。あとでまた聞きますのでよく覚えて おいてください。 (以下の系列のいずれか1つで、採用した系列に○印をつけておく) 1:a) 桜 b) 猫 c) 電車 2:a) 梅 b) 犬 c) 自動車	3つOK	0 1 0 1 0 1
5	100から7を順番に引いてください。(100-7は？、それからまた7を引くと？と 質問する。最初の答えが不正解の場合、打ち切る)	93 (93) 85 (86)	0 1 0 1
6	私がこれから言う数字を逆から言ってください。(6-8-2、3-5-29を逆に言っ てもらう。3桁逆順に失敗したら打ち切る)	2-8-6 OK 9-2-5-3 X	0 1 0 1
7	先ほど覚えてもらった言葉をもう一度言ってみてください。 (自発的に回答があれば、各2点。もし回答がない場合は以下のヒントを与え正解であれば1点) a) 植物 b) 動物 c) 乗り物	a) OK, b) ヒント肩でOK, c) ヒント肩でX	a: 0 1 2 b: 0 1 2 c: 0 1 2
8	これから5つの品物を見せます。それを見ますのでなにかあったか言ってください。 (時計、鏡、タバコ、硬貨など必ず相互に無関係なもの)	時計、鏡、X、X、X	0 1 2 3 4 5
9	知っている野菜の名前をできるだけ多く言ってください。 (答えた野菜の名前を右欄に記入する。途中で詰まり、約10秒間待っても 答えがない場合にはそこで打ち切る) 0-5=0点、6=1点、7=2点、 8=3点、9=4点、10=5点	白ネギ、大根、 オクラ、人参、 ブロッコリー	0 1 2 3 4 5
合計得点:			

1. 認知症なし
2. 軽度認知症
3. 中等度認知症
4. 重度認知症
5. 最重度認知症

解：2、3(複数の解が選択できる)

理由

文献1の重症度別平均得点によると選択肢「2」の軽度認知症は19.10±5.04、選択肢「3」の中等度認知症は15.43±3.68と示されている。問題10 別冊No.5の合計点数は19点であり、選択肢「2」と選択肢「3」の双方に含まれる。

したがって、選択肢「2」、「3」の複数の解が選択できる。

文献2では、「長谷川式簡易知能評価スケールは、認知症のスクリーニング検査の1つであり、カットオフ値が20/21であり、20点以下を認知症の疑いとされるが、点数のみで認知症と判断されるべきではない」とある。長谷川式簡易知能評価スケールは重症度分類を目的としない。

また、別冊No.5の項目6に脱字があり、「3-5-2-9」と表記すべきところが「3-5-29」と記載されている。

参考とする文献

1. 守口恭子：高齢期における認知症のある人の生活と作業療法 第2版. 三輪書店. p. 109, 2017.
2. 松房利憲監修：高齢期作業療法学 第4版. 医学書院. p. 143, 2024.

第 60 回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(令和 7 年 2 月 24 日実施)

午後 問題	問題番号 (27)
27 MTDLPでインテーク面接が終了し、対象者の望む生活の把握ができた。 次の段階で用いるのはどれか。 1. 生活行為申し送り表 2. 生活行為課題分析シート 3. 生活行為聞き取りシート 4. 興味・関心チェックシート 5. 生活行為向上マネジメントシート 解：2、5（複数の解が選択できる）	
理由 文献1、2より、インテーク面接終了後のアセスメントでは、選択肢「2」の生活行為課題分析シートと生活行為アセスメント演習シートを使用すると記載されている。 また、文献2には、「プロセスが理解でき、日々の臨床で用いる場合には、基本ツールの3つのシート（生活行為聞き取りシート、生活行為アセスメント演習シート、生活行為向上プラン演習シート）をまとめた生活行為向上マネジメントシートを使う」と記載されている。 したがって、選択肢「2」、「5」の複数の解が選択できる。	
参考とする文献 1. 竹内さをり，他：作業療法マニュアル75 生活行為向上マネジメント．改訂第4版，一般社団法人日本作業療法士協会．p. 19, 2022. 2. 一般社団法人日本作業療法士協会編著：事例で学ぶ 生活行為向上マネジメント．第2版，医歯薬出版．p. 39-77. 2021.	

第 60 回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(令和 7 年 2 月 24 日実施)

午後 問題	問題番号 (53)
53 味覚を支配する脳神経はどれか。 1. 三叉神経 2. 舌咽神経 3. 迷走神経 4. 副神経 5. 舌下神経 解：2、3（複数の解が選択できる）	
理由 味覚の感覚器は味蕾であり、舌の前3分の2の部分は顔面神経、舌の後ろ3分の1の部分は舌咽神経に支配されているため、選択肢「2」が選択できる。喉頭蓋と口蓋に存在する味蕾は迷走神経に支配されており、選択肢「3」も選択できる。 したがって、選択肢「2」と「3」の複数の解が選択できる。	
参考とする文献 1. Paul A.Young, Daniel L.Tolbert：臨床のための脳と神経の解剖学，メディカル・サイエンス・インターナショナル，p.193，2019.	

第 60 回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(令和 7 年 2 月 24 日実施)

午後 問題	問題番号 (6)
6 52歳の男性。右利き。脳梗塞による右片麻痺。発症後14日目に回復期リハビリテーション病棟へ転棟した。意識は清明で、認知機能に問題はない。Brunnstrom法ステージ上肢Ⅲ、手指Ⅲ、下肢Ⅴ。疼痛や浮腫はない。機能回復を目的とした作業療法を図に示す。 現時点でこの患者の右上肢に行う訓練で最も適切なのはどれか。  1. ペグ差し 2. 立位での輪投げ 3. 両手でボールを受ける 4. 輪を背中で持ち替え 5. 肘伸展位での拭き	
解：解なし 理由 文献1、2によれば、Brunnstrom法ステージ上肢Ⅲは、「基本的共同運動またはその要素を随意的に起こしうる。痙縮は強くなり、最強となる」、手指Ⅲは、「指の集団屈曲が可能、鉤型握りをするが、離すことはできない。指伸展は随意的にはできないが、反射による伸展は可能なこともある」とされており分離運動が出現していない時期である。 選択肢「1」「2」「3」「5」は、上肢の肩屈曲と肘伸展の分離運動と手指の随意的な伸展運動が必要 選択肢「4」は、上肢の肩伸展と肘屈曲の分離運動と手指の随意的な伸展運動が必要 選択肢「1」から「5」すべて共同運動から分離した上肢の屈曲・伸展運動、手指の伸展運動が必要となるため、現時点でこの患者に行う訓練としてはすべて不適切である。 したがって、提示された選択肢からは解を選択することはできない。	

参考とする文献

1. 能登真一, 山口昇, 玉垣努, 新宮尚人, 加藤寿宏, 勝山しおり編集: 標準作業療法学専門分野 作業療法評価学. 医学書院, p. 259, 2024.
2. 長崎重信監修, 佐竹勝編集: 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト3 作業療法評価学, メジカルビュー社, pp. 107-108, 2012.